

平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事 業 名	歯科衛生士(高度専門士)のための医療情報管理高度教育プログラムの開発と実践		
法 人 名	学校法人 歯研会学園		
学 校 名	新東京歯科衛生士学校		
代 表 者	理 事 長 中 村 道 雄	担 当 者 連 絡 先	都 智 子 TEL 03-3763-2200
<p>1. 事業の概要</p> <p>歯科衛生士不足が慢性化している背景には、女性特有の雇用に関する問題(結婚・出産などにより退職し、再雇用されにくい)の存在がある。現状の業務範囲では、現場経験の豊富さをメリットとして活かすことができず、結果的に中高年齢者の再雇用が進まなくなってしまう。こうした状況を改善するため、現場経験の豊富さを活かせる管理能力に長けた新たなスキル人材の育成を提案する。本事業では、医療保険制度等を体系的に理解し、ITを活用した情報管理に長け、歯科医師のパートナーとしてリスクマネジメント(医療現場の危機管理)ができる歯科衛生士(高度専門士)を養成する高度教育プログラムを開発し実践する。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業では、平成17年度に作成した医療情報管理高度教育プログラムを基礎として検討を重ねることにより、『医療保険制度等を体系的に理解し、ITを活用した情報管理に長け、歯科医師のパートナーとしてリスクマネジメント(医療現場の危機管理)ができる歯科衛生士(高度専門士)』を養成する高度教育プログラムの作成を目指し、次に挙げるように一定の成果をあげた。 ・実務・業務WG、医療面接WG、リスクマネジメントWG、およびIT基礎技能WGという4つのWG(ワーキンググループ)にて、それぞれの分野の高度教育プログラム(90時間×4分野=360時間)を作成した。 ・さらに、その一部を短期教育コースとして編成(18時間×4分野=72時間)し、現役の歯科衛生士や歯科衛生士を目指す学生を対象とした実証講座を2回行い、その効果についても検証した。 <p>②事業により得られた成果</p> <p>実務・業務WG、医療面接WG、リスクマネジメントWG、およびIT基礎技能WGという4つのWG(ワーキンググループ)にて、それぞれの分野の高度教育プログラム(90時間×4分野=360時間)を作成した。教育プログラムとして、全体カリキュラム、シラバス、教材(テキスト)を作成している(実績報告書に掲載)。</p> <p>③今後の活用</p> <p>本事業で作成した教材については、本校ならびに事業協力校である中央医療歯科専門学校において、活用される見込みである。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>今回のIT基礎技能教育については、歯科医療現場の現状とニーズを踏まえて考えられており、現時点での教育内容として、十分に検討されたものができたと認識している。しかしながら、この分野の技術とニーズは日進月歩であり、技術動向を見据えた上での教育内容のブラッシュアップが欠かせないだろう。来年度(2007年度)入学してくる学生たちが、現行の3年課程を終えて卒業するのは2010年3月である。2011年にはレセプトの電子化が義務化されるので、これからの学生にとっては、電子レセプトや電子カルテがあたりまえになるのかもしれない。こうした状況も踏まえ、教育内容をメンテナンスしていきたい。</p>			

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

(調査のねらい、対象、方法、調査項目、調査結果及び分析の内容) 歯科衛生士の就業状況の実態を把握するため、本学(新東京歯科衛生士学校)の卒業生のうち卒後5年、10年、15年、20年となる323名を対象にしてアンケート調査を行い、現在の就業状況や生活の実態などについて集計解析を行った。回収された調査票は、住所不明で返送されたものを除いた264件のうち90件であった(回収率34%)。今回の卒後状況アンケートの回答において、一番興味深く感じた項目は、歯科衛生士学校時代に必要とされる授業項目である。大多数の方がパソコン実習を挙げている。時代のIT化を背景にすれば当然の結果といえるだろうが、単純なIT化ではなく、今後、歯科におけるレセプト完全オンライン化が原則として4年後(平成23年)には義務化されるという現実も影響していると考えられる。

②カリキュラムの開発

(テーマ、開発経緯、対象、手法、開発内容) 平成18年度は平成17年度事業の成果をもとに事業内容を策定し、実施委員会の統括の下に、次の4つのWG(ワーキンググループ)を設置して事業を推進・実施した。

① 実務・業務WG、② 医療面接WG、③ リスクマネジメントWG、④ IT基礎技能WG

それぞれのWGにより開発された教育プログラムは、①実務・業務WGでは5講座、②医療面接WGでは3講座、③リスクマネジメントWGでは4講座、④IT基礎技能WGでは3講座の計15講座であり、高度教育プログラム全体では合計360時間、短期教育コースとして72時間となっている。

③実証講座

(テーマ、期間、受講者の属性・受講者数、場所、受講者の反応) 上記カリキュラムのうち、短期教育コースとして設定した72時間について実証講座を48講座、延べ144時間実施した。開講場所は本校の教室および事業実施協力校である中央医療歯科専門学校のパソコン実習室である。受講者は、それぞれの学校の学生・卒業生および教職員である。学生・卒業生からは「実践的で、実務に役立つ」という評価を得ている。教職員からは、「必要性は理解できるが、このレベルまで必要化は疑問」など、現状の教育内容との整合性についての検討を深めるべきとの指摘を受けている。概して、内容に対しての興味・関心は強いようであった。

④その他

(事業の特色、事業実施にあたり工夫した点等を記載) 教育プログラムを作成していく中心的な役割を果たすWGのメンバーに、歯科医師や歯科衛生士など現場で活躍されている方と、行政側・事務側の第一人者とを加え、多角的な視点から、現在のみならず将来の歯科衛生士教育に役立つカリキュラムとなるよう議論を尽くしていただいた。リスクマネジメント、レコードマネジメントなどの視点を取り入れられたことは、こうした体制による成果であり、本事業の特色といえる。また、授業の形態についても、講義形式だけでなく、「教える側と受講者側との協業による学びの空間づくり」に心がけていただいた。特に、医療コミュニケーション分野やIT分野では、こうした取組みが上手く作用していたようである。